No.16
2008年11月20日第十六期

在日華人
女性交流会

ソプラノリサイタルを共に楽しむ

いけばな作品出展

活動報告

中秋望月

東京文化散歩

近所発見

http://www.acwj.gr.jp　E-Mail:acwj03@hotmail.com　在日華人女性交流会編集局発行

中国出身南英姫ソプラノリサイタルを共に楽しむ

2008. 11. 9姜整理

２００８年１１月５日（水）午後６時半から、東京旧東京音楽学校・奏楽堂にて、中国出身の南英姫ソプラノリサイタルが行われました。

これは南英姫ソプラノ歌手が今年の夏に「東アジア抒情を歌う」ＣＤ発売を完成し、その記念として、また日中友好条約三十周年記念を迎え、行ったものであります。南英姫ソプラノ歌手は中国、日本、韓国語でそれぞれの国の抒情歌全14曲を歌いました。中には私達がもっとも親しみをもつオペラ「白毛女」の挿入歌北風吹もありました。北風吹はアンコールで最後にもう一度歌ってくださいました。

南英姫様は中国国立中央音楽学院で声楽を学び、1996年には日本武蔵野音楽大学を卒業、1999年同大学院修士課程を修了しました。現在まで、王乗鋭、栗山和子、菊池英美、エレナ・オブラスツォワ、ヴィットリーテッラーノヴァ各氏に師事、５歳からアイドルとして歌い、８３年、中国全国少数民族音楽コンクールで優秀賞を受賞、84年より北京中央歌劇団でソリストとして活躍しました。現在は日本各地をはじめ、中国、韓国、タイ、フィリピン、アメリカ、カナダ、ロシア、ドイツ等幅広く活躍しています。在日華人女性交流会をいつも快く支援し、この度は１０枚の招待券を届け招待してくださいました。

終了後には当会の皆さんと記念写真も撮りました。本当に心より感謝いたします。今後南様の更なるご発展とともに在日中国人のため、中日友好、世界平和のため歌い続けることを心よりお祈りいたします。

当日リサイタルに参加した会員及び関係者の皆様お疲れ様でした。

ソプラノリサイクルのポスター

南英姫さんとの記念写真

いけばな作品出展

提供：袁中

2008年11月1日（土）　～2008年11月4日（火）　銀座松坂屋にて池坊東京生成会支部創立40周年並びに青年部20周年記念花展が銀座松坂屋で開催されました。

在日華人女性交流会の会員袁中の作品（自由花小品）を展示されました。会長姜春姫さんと松月さんがお見えになりました。

主催：華道家元池坊東京生成会支部
後援：華道家元池坊東京連合支部
協賛：財団法人池坊華道会

活動報告

文・写真提供：松月

１０月２５日、清清しい秋日和の日に、亀戸にある東京大排当で「南京同郷聯誼会」設立パーティが開かれました。

パーティには中国大使館の許澤友総領事と劉敬師領事、著名書道家の劉洪友さん、日本新華僑華人会の李磊副会長、各業界のエース達、そして羅華会長の招待を受け、我が交流会からは姜会長と黄副会長が出席しました。

故郷の方言を用いた羅華会長の音頭から始まり、特別ゲストとして招かれた許澤友総領事と李磊副会長の祝辞と挨拶という流れで、パーティ会場は始終熱い雰囲気の中で沸騰していました。

みんな日々多忙な仕事のストレスを忘れ、まるで故郷に戻ったような感じでリラックスして談笑していました。久しぶりに会う人もいれば、会場で初めて会う人もいるし、友人の誘いで南京出身じゃない人もいました。南京から来た方々が東京にこんなにいたのかと思うぐらい『東京大排当』２階の大ホールに一杯集まりました。

お互いに仕事の情報、そして家族、子供、親友、故郷に残した親兄弟のこと等で話は尽きることなく盛り上がりました。

姜会長の隣の席に座っていた劉敬師領事は、我々女性交流会の活動を高く評価しました。また今後更なる発展と日中間の女性交流や在日華人女性達の仕事、生活、経済及び教養の向上のために貢献して欲しいと、激励のお言葉とエールをも頂きました。

南京同郷聯誼会の華やかな設立会に刺激され、我々も今後もう少し活発に活動し、交流会を、在日華人女性達が『お互いに助け合い、支え合い、高め合うコミュニケーションの広場』として成長しなければいけないなと思いました。

以上パーティ解散後、姜・黄両会長が交わした感想をまとめながら、先月の活動を会員様全員にご報告申し上げます。

2008. 11吉日

中秋望月

沈　桐

明月东升，桂花飘香，思念故人，长歌以寄怀

2008年中秋佳节，

窗外桂花香，
海上明月升。
我乘明月行千里，
俯首早见故乡城。
吴刚玉杯传美酒，
嫦娥素手举相赠。

我饮琼浆多感慨，
故乡月色分外明。
西陵风转烈，
督府叶正红。
合作路边林荫下，
又传琅琅读书声。

燕赵英雄地，
古来多人杰。
逐鹿中原没黄土，
潇潇易水今尚寒。
我邀故人遨东海，
携手并立富士山。
地黑天青无余色，
亘古未变是婵娟。

窗回望大海起波涛，
天堑常为人阻隔。
鸿雁亦畏万里程，
心有灵犀赖电波。
我送归心与明月，
为君高唱游子歌。

君不见伍子胥过韶关，
一夜白了少年头。
君不见寸草春晖天涯路，
乡情最浓是中秋。
自从去年别君后，
常在月夜上高楼。
葡萄美酒菊花杯，
不解人愁更添愁。

我今独对窗前月，
遐思悠悠意绵绵。
只愿相逢终有日，
更遣青鸟报君前。
愿将长江黄河滚滚东流水，
洗尽离愁素面对红颜。

2008年9月14日於东京

東京文化散歩

東京ただの散歩――　一　凡

国語の先生から上記タイトル宿題を出された時、最初は、夜中に雑司が谷霊園に散歩に行こうかとも思っていたが、さすがに不審極まりないので、ある日の午後、先生のBコースを参考にして散歩することにした。

行きは最寄の都電停留所から出発して、雑司が谷まで乗った。よく乗り慣れたコースだったが、落ち着いた配色の車両や粗い制動音が変わらない風情を醸し出していてよかった。

雑司が谷で降りると、道路拡張工事か何かで、停留所前の風景がずいぶん変わってしまったような印象を受けた。霊園は降りて左手に少し入ったところにあって、以前雑司が谷を利用していた時は大して縁がなかったので、あまり立ち寄ろうとも考えなかったが、実はとてもオープンな場所で、どこからでも入れる雰囲気だったので、あまり墓地だという印象を与えなかったのには驚いた。とりあえず先生のプリントに書いてあった有名人の墓で、名前を知っている墓をまわることにしたが、この墓地には、スタンダードな四角い墓地にまじってずいぶんと個性的な墓もちらほら見受けられて面白かった。まわった墓のうちでは、例えば小泉八雲の墓石がまるで地面に置かれた石の上から生えているように立っていたり、竹久夢二の墓などは明らかに墓よりも植えられた木の方が格段に目立っていた。何々家代々の墓とかいうものとは違ってこういった個人墓はやはりその人の個性が現れるのか、それ自体でモニュメントのような存在感を出していた。墓というよりも記念碑という方が正しいのかもしれない。多くはその横にその一族の墓もひっそりと付設されているからである。

一通りまわり終わった後に、一般の墓も眺めてみたが、なかなか味のあるものがあった。「こころ」を持参して行ったが、その記述通り、神僕何とかという墓の脇に卒塔婆がこれでもかというほど立った墓があったり、また墓と一緒に植えたと思しき木が成長して墓石を待ち上げ、ピサの斜塔のように傾いたものもあった。有名人の墓で名刺受けがついているのをよく見かけたが、死後も知らない人が訪ねてくるのはわずらわしいだろうなと思った。そんなことで歩き回っていると、突然落ち葉の積もった道の脇の茂みから鴉がバサバサッと目の前に飛び出してきて、ひどく腰を抜かしてしまった。

雑司が谷霊園を出た後は特に行くあてもなく、地図は持っていたので隣の豊島ヶ岡御陵にも寄ろうかとも思ったが、あんまりお墓ばっかり行くのもあれなので、都電唯一の高架（だった気がする）のガードをくぐって、鬼子母神へ向かった。途中面白い外観の建物があって、しばらく眺めていたが、音大の校舎だったらしい。音大がこんな所にあったとは知らなかった。本館が改築工事中でよくわからないが、建設中の骨組をみた限りでは、前衛的な建物のような予感がした。

鬼子母神堂は七五三の旗が立っていたが、そう人はいなかった。そもそもここはお寺なのだし、七五三はよそでやるものだと思うのだが、神仏習合ということもあるし、脇に稲荷が併設されているので、深く考えるだけ無駄な気がしてきた。境内ではおじさんが年代物のレコードを並べて売っているのが目に止まった。

ここの鬼子母神は仏門に帰依して角がとれたというので、「鬼」と書かずに「鬼」（角がない）と書くことになっているのだが、好奇心を起こして角のついた「鬼子母神」は一つもないのかと境内を探し回った。のぼりにも掲示板にも角がなく、文化財の看板にも消火栓の標示にも角がついていないので、さすが徹底されているなぁと思ったら、よりによって本堂の真ん前の石碑にばっちりと「都重宝　鬼子母神堂」と書かれてあって、思いっきり脱力した。文字通り画龍点睛である。ちなみに、この後明治通りに出た時に、案内板で鬼子母神堂に、kishimojindo とふられているのを見て目を疑った。都電の停留所は「きしぼじん」のはずだと思うのだが、いまいち分からなかった。

鬼子母神を出た後は文学とこじつけてしばらくジュンク堂で立ち読みをしていた。とは言ってもフロアに椅子が置いてあるので座って読める。各フロアを回ってみたが、「世界の日本人ジョーク」とかいう本が非常に面白かったのが印象に残っている。

さて、ジュンク堂を出たものの、特に行先もなかったので、とりあえず道に沿って歩いた。途中にメガネスーパーがあったので、メガネを機械で超音波洗浄した。フレームの隙間から汚れが煙のようにもれだしてくるのを楽しみながら、メガネもきれいになったので、何とはなしにサンシャインに向かった。買い物をする予定もなかったので、サンシャインシティーの奥の方にあるオリエント博物館に行くことにしたのだが、七階の博物館に行くエレベーターを待っていたところ、降りて来たおばさんに「あなた博物館行くの。だったらこれ持って行きなさい」と言われ、なんと特別展示の招待券を頂いてしまった。おばさんに感謝しつつ、運命に従って特別展示を見に行った。「シルクロード　華麗なる植物文様の世界」と題された展示で、この日が最終日だったらしい。館内には、植物の形に象った祭器や、緻密な唐草文様で構成されたイスラム美術・ペルシャ絨毯、色とりどりに彩色されたタイルなど、興味深く、目を楽しませてくれる品々が多く展示されていた。古代のハンコとかいうものもあり、主に転がして模様をつける装飾的なものが多かった。この幸運を無駄にしないように、じっくり鑑賞した。

帰りは少しハンズに寄ってから、歩いて帰った。雨は降らないだろうと思って傘は持って行かなかったが、五時までには雲行きがずいぶんあやしくなっていた。それでも雨が降り出さなかったのも幸いだった。

写真・文章提供
土肥哲英氏

今回はヤマオダマキの花をご紹介します。
これは黄色ですが、高山植物の仲間には青紫色のミヤマオダマキがあります。栽培種のオダマキは、このミヤマオダマキからといわれています。

＊＊　近所発見　＊

＊　近所発見　＊